

日本をキリストへ 協力

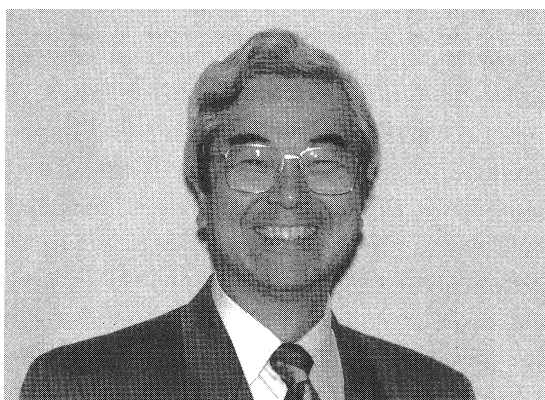
「日本をキリストへ」
伝道団体連絡協議会

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-1
TEL 03-3291-5035 (総動員伝道内)
www.gospeljapan.com/dd/

「伝道団体は教会に協力しているか」

日本伝道者協力会

福澤 満雄



とは言えないからです。

「塔を築こうとするとき、まずすわって、完成に十分な金あるかどうか、その費用を計算しない者が、あなたがたのうちにはひとりでもあるでしょうか。」(ルカ一四・二八) 不況の嵐は静まりません。その影響は教会会計にも押しよせていきます。不況の中で信徒たちは、十分の一(月定) 献金、築会献金、特別献金を献げています。その上、伝道団体にも献げて下さっています。わずかな年金の中から献げて下さっている老信徒も多いためです。私たちは信徒の方々の尊い犠牲の上に支えられているのです。この事を忘れることなく心いっぱいの感謝を表わすことが大切です。

毎月、私のもとにも多くの伝道団体からの献金の要請と、振込用紙が送られてきます。しかし、何と一方的な事が多いのでしよう。予算いくらずで、この事業をするので、献金をしてほしい。「捕らぬ狸の皮算用」は信仰でも何でもありません。信徒のサイフは一つです。その上で一人一人が祈り導かれ献げているのです。

二十二〜二十三節
伝道団体は、キリストに従い、キリストの身体なる教会の為に存在しています。教会が建て上げられていく為にどれだけお役に立っているのか、ということに常に忘れてはいけません。伝道団体がいくらか大きくなって組織化され、多くの献金を集めたとしても、それが教会に還元されなければ自己満足に過ぎず、キリストの身体なる教会の愛の共同体

私たちが伝道団体の責任者は、今、与えられている力の中で、何が出来るのかを考える時だと思えます。その時、きつと、神は祝福し、必要を満たし、教会は伝道団体を共同体として喜びをもって受け入れてくれるでしょう。その時、本当の意味での教会と伝道団体との協力の絆がしっかりと結ばれていくに違いありません。

る局長の言葉が素直に伝わってきます。

ただ残念なことは、イスラエルの法によって、物資援助と伝道は同時に出来ないということです。現在、毎月数千人もの着のみ、着のままの状態でロシア、東ヨーロッパの貧しいユダヤ人が帰郷していますが、それはまるで数千年前、やっとの思いでカナンの地にたどり着いたヨシユアやイスラエルの民のようだと思います。

「あなたを祝福するものをわたしは祝福し、あなたをのろうものをわたしはのろう。地上のすべての民族は、あなたによって祝福される」(創世記十二・三)。

これは神がアブラハムとの間に結ばれた契約です。つまり「イスラエルを祝福するなら、神ご自身はその人を祝福してください」と約束されています。この創



世記の約束通り、祈りと物資支援による愛が何倍もの祝福となつて、日本に大リバイバルが起こることを信じる、柔和でたくましい女性パワーがきょうも神様と共に働いているのです。

加盟団体紹介

ハーベスト・タイム・ミニストリーズ

理事長 中川健一

「収穫の時は近い!」

ハーベスト・タイムは、二〇〇四年四月から十九年目の放映に入りました。今までの歩みを振り返りますと、まさに主の恵みとしか言いようがありません。小さき者たちをここまで導いてくださった主に感謝するとともに、ご支援くださった諸教会、クリスチャンの皆様にご心からのお礼を申し上げます。

(1) 設立当初から、福音テレビ番組の放映を第一の柱に掲げて活動してきました。なるべく

時代を反映した番組を制作したいと願っています。最近では、クリスチャン・ビジネスマンたちの活動が活発になり、多彩なゲストを番組にお招きすることができるようになっています。また、番組の中にジャーナリストや様々な視点を盛り込み、世界各地でどのような主の御業が進んでいるかを紹介する企画も実行に移されています。現在、国内十四局で週に一回放映がなされています。

(2) 各地での伝道集会、聖会の奉仕に加え、数年前から月例会という定例の集会を東京と大阪で開催しています。これが、視聴者の皆様との良き接点となっています。

(3) 視聴者へのフォロワーのつもりで始めた文書伝道が、ここ数年で飛躍的に延びています。機関紙の月刊『収穫の時』以外に、クリスチャンの霊的成長を助けるデポジションガイド

「Camp (クレイ)」や、イスラエル情勢を伝える月刊『イスラエル・トゥデイ』などを出版するようになりました。また、昨年は文芸社から拙著『日本人に贈る聖書ものがたり』が出版され、一般の方々にもかなりのインパクトを与えることができました。

(4) 米国でのハーベスト・タイムの働きが非常に祝されており、現在、衛星放送を含めると合計四局で放映されるようになってきました。すべての番組に字幕スーパーを入れていきますので、英語圏の方々にも視聴されています。

今後とも、福音番組の制作放映を第一の柱とし、それを補足するものとして、諸集会の開催、伝道文書の出版を行なうつもりです。聖書のことばを現代に適用し、現代人に救いの道を提示する活動を今後とも展開します。ぜひ、ご加禱をお願いします。



伝団協情報交換会報告



二〇〇四

年二月二日

(月)午後三

時から五時ま

で、お茶ノ水

クリスチャン

センター七一

三号室にて、

本年度の情報交換会をもった。今回は十二団体から十三名の参加者が集まり、礼拝(第一部)、情報交換会(第二部)、祈りの時(第三部)の順で会が進められた。礼拝では日本聖書協会総主事の渡部信師からイザヤ書六章一〜八節でメッセージを取り次いでいただいた。メッセージの内容を簡単に紹介すると、二十一世紀に入ってこの数年、この世界では、狂牛病やサース、そして今年は鳥インフルエンザと、まったく何が起こるか分からない時代になっている。その他一般企業も不振にありえている。キリスト教出版業界もそのただ中にある。しかし、そのすべては神様の御手の中で起こっていること、キリスト教団体もその中にある。まさに、イザヤの時代も現代のようではない。また、イザヤの時代のウジヤ王「王」も、どうしていいか迷ったイザヤは不平、不満で、不信仰に陥っていった。しかし、イザヤは神殿で祈っていた時、神様の栄光がすでに全地に満ちている事に気づかされ、自分の不信仰に気づき、汚れ、

罪、不満を一切止め、再決心をしていった。私共も唇を聖めていただき、「主よここに私が居ます。私をお遣わし下さい」と、主に遣わされていた。いて前進したい。

第二部の情報交換会では姫井師が進行役をつとめ、いのちのことは社の伝団協加盟部門が統合され、全国家庭文書伝協会(EHC)などが抜けて、伝団協加盟団体の数が減っていることを報告。そして各団体の今年の活動報告に移っていった。今回、情報交換会に参加された団体は、十二団体。参加団体は、いのちのことは社伝道グループ、太平洋放送協会、小さないのちを守る会、J.T.I宣教師学校、パラビジョン、日本聖書協会、光のミッション、ワールド・ビジョン・ジャパン、日本キリスト伝道会、日本伝道者協力会、国家朝拝祈禱会、総動員伝道。

第三部では、祈りの項目をそれぞれが出し、皆で一斉に祈り散会した。

(報告者…日本聖書協会 小林幸順)

伝道団体訪問ツアー

ブリッジス・フォー・ピース・ジャパン

寒さも一段と厳しい真冬の昼下がり、総動員伝道の姫井氏、国際ナビゲータの渋沢氏、いのちのことは社の萩生田氏とJ.T.I宣教師学校の中村の四人がBFPJを訪問しました。

BFPJの意味はズバリ「平和の架け橋」です。「クリスチャンとユダヤ人とを隔てている溝に、愛と平和を築くための架け橋」です。エルサレム

を本部とし、和解と平和のために活動している国際キリスト教団体で、BFPJの願いは、「クリスチャンとユダヤ人がお互いの理解を深め、神にある兄弟としての関係を構築すること」と熱く語ってくれたのは、局長の高田篤美さんでした。局長と並んで同席された月刊誌「オリーブ」の編集長石田陽子さんは、大学を出て間もないという若さで、他にも女性ばかりのスタッフが六人、清潔感あふれる事務所で仕事に励んでいました。事務所のデスクは、一人ひとり個室のように仕切られており、完全に自分のペースで仕事が出来空間になっています。それだけに、各自が抱えている仕事の大切さを感じました。それは、彼女たちひとり一人の目の輝きにも、はつきり現れています。

局長も編集長も、スタッフ全員が聖書に根ざした信仰によって、喜びをもって、「愛の架け橋にならん」とする姿勢には、穏やかな中にも激しさが秘められており、何よりも、「勢い！」があります。全員が同じひとつの目的に向かって邁進しているからだと思います。

BFPJJの主な活動は大きく二つあります。ひとつは、クリスチャン向けの月刊誌「オリーブ」の発行。この「オリーブ」は毎月五千部発行していますが、日本全国約一千の教会で購読され、クリスチャン書店でも一部二百円で販売されています。

二つには、日本全国の教会から送られてくる「献金」を「現金」でイスラエルに送金していることです。何ゆえ「現金」かと言いますと、現地で物資を購入すれば、それだけ現地の経済が潤うからです。「祈りと献金をささげてくださいる方々、教会各位には、心から感謝しています」と言われ

「伝団協」加盟団体「ニュース・フラッシュ」

●パラビジョン

一九八三年創立以来、代表を務めた柳沢清兄は二〇〇二年十月召天。二〇〇三年五月より代表代行を務めた竹内恵兄が、本年一月、正式に代表となり業務にあたっています。乞うご加禱。

●総動員伝道

入院中の北條和人師が早く回復するようにお祈りください。千葉西総動員伝道が始まろうとしています。

●日本伝道者協力会

四月二十三日、一日セミナーを開催します。「心を捉える話し方」という題で、川平朝清氏が講演してくださいませ。会費二千円。会場のC.C。

●福音主義医療関係者協議会 (EMF)

活動予定・EMF総会とサマーキャンプ(八月九日〜十二日、山形)。秋のシンポジウム(関西と関東で予定)。国外研修(八月中旬予定)。ホームページ (<http://www.12ocn.ne.jp/emf>) を参照下さい。

●日本キリスト伝道会

中華民国台湾国際伝道会の招聘に応じ深谷春男師、川嶋賢広師(本会実行委員)を派遣することになりました。また日本国内の伝道には各地

へエバンジェリストを派遣します。八月の第三十六回・日本伝道幻を語る会には、山北宣久師、水谷恵信師、岡田信常師を講師として開催します。どうぞご加禱ください。

●いのちのことは社伝道グループ

五月から七月にかけて全国のキリスト教書店で「ザ・バイブルキャンペーン」を開催しています。各店頭で新改訳聖書第三版をはじめ、関連書籍やグッズ、セミナーを紹介しています。それらを通して多くのお客さまが主への思いを新たにし、日々主とともに歩む幸いを覚えることができますように。



(伝道団体連絡協議会とは)

キリスト教界には大きく分けて二つの分野があります。キリストの十字架の血によって罪赦された人々の集まりとしての「教会」と、クリスチャンになった者たちがそれぞれの使命をもって専門的な分野で伝道活動、福祉活動などを行っている「伝道団体」です。この二つはともに協力し合って神の福音を伝え、神の国の拡大に務めています。教会と伝道団体はともに助け合う必要があります。伝道団体がバラバラに活動していたのでは教会にとって協力しにくいし、伝道団体相互にとっても力を欠くこととなります。そこで連絡のために一つになろうと「伝道団体連絡協議会」が生まれました。現在三八の団体が傘下にあります。



発行日 二〇〇四年四月二十八日
発行者 村上宣道
編集者 萩生田 充